

精神保健福祉論Ⅱ

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 精神障害者の支援において係わる施設、団体、関係機関等について説明できるようになる。
- 2 更生保護制度と医療観察法について説明できるようになる。
- 3 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を備える。

【授業の展開計画】

| 週 | 授 業 の 内 容 |
|----|---|
| 1 | 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関①行政組織と民間組織 |
| 2 | 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関②福祉サービス提供施設・機関の役割 |
| 3 | 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関③インフォーマルな社会資源の役割 |
| 4 | 相談援助に係わる組織、団体、関係機関④専門職や地域住民の役割と実際 |
| 5 | 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係①刑事司法と更生保護 |
| 6 | 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係②保護観察所と更生保護の担い手 |
| 7 | 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係③司法・医療・福祉の連携の必要性和実際 |
| 8 | 医療観察法の概要と実際①医療観察法の意義と内容 |
| 9 | 医療観察法の概要と実際②医療観察法の審判と精神保健参与員の役割 |
| 10 | 医療観察法の概要と実際③入院医療 |
| 11 | 医療観察法の概要と実際④地域処遇 |
| 12 | 医療観察法の概要と実際⑤社会復帰調整官の役割と実際 |
| 13 | 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査①意義・目的・対象・倫理 |
| 14 | 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査②量的調査法と質的調査法 |
| 15 | 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査②ICTの活用・実践例 |

【履修上の注意事項】

- 1 期末試験の受験と合格（60点以上 学則参照）
- 2 この講義における「再試」は実施しない
- 3 本科目は精神保健福祉士国家試験における指定科目（精神保健福祉に関する制度とサービス）である
- 4 授業前に当該担当部分についてのテキストを一読しておくこと
- 5 授業後に配布された資料とテキストなどを照らし合わせながら授業の振り返り（復習）を行うこと

【評価方法】

- 1 授業中のレスポンスとミニレポート（30%）
- 2 期末試験成績（70%）

【テキスト】

日本精神保健福祉士養成校協会編・新精神保健福祉士養成講座⑥『精神保健福祉に関する制度とサービス（第3版）』2014年，中央法規

【参考文献】

『精神保健福祉白書 2015年版』精神保健福祉白書編集委員会編，中央法規